

ホンモロコ天然親魚からの採卵実績

吉岡 剛・三枝 仁

◆背景・目的

滋賀県では、ホンモロコの種苗生産を行うに当たり、遺伝的多様性への配慮から琵琶湖で天然産卵された卵を採集し、親魚生産を行っている。計画的な生産を行ううえで親魚からの採卵量把握は重要である。そこで、今まで知見のない、琵琶湖天然ホンモロコ親魚の採卵量把握を行った。

◆成果の内容・特徴

- ・ 親魚は、平成18年の春に琵琶湖で天然産卵された卵から養成したホンモロコを使用し、40^ℓの飼育池2面で飼育した。
- ・ 採卵は平成19年4月29日～6月27日にかけて、遮光シートを用いた産卵基体*¹で行った。産着卵数を把握することは困難であるため、ふ化後のふ化仔魚を計数した。
- ・ 期間を通じてのふ化仔魚数は、40,191千尾であった。採卵に使用した産卵基体の総数は112枚であり、1枚当たりのふ化仔魚数は、35,886尾となった。
- ・ 採卵終了時の平成19年6月30日に各池の一部の魚を取上げ、魚体重を計測し、平均体重と飼育尾数から総重量を推定した(表1)。

池番号	平均体重(g)	飼育尾数	総重量(kg)	採卵基体数	ふ化仔魚数	ふ化仔魚数／1万尾
7A-7	4.45	10,328	45.96	85	3,050,282	2,953,410
7A-8	3.50	12,631	44.21	27	968,913	76,7091

表1. 池別の採卵結果

◆成果の活用・留意点

魚体重が4.5gの場合、魚体重3.5gに比べ、ふ化仔魚発生数は約4倍となった。
当歳魚の場合、平均体重3.5gのロットでは、産卵に参加しない個体も数多く見られたことから、効率よく採卵するためには親魚をより大きくする必要があると思われる。

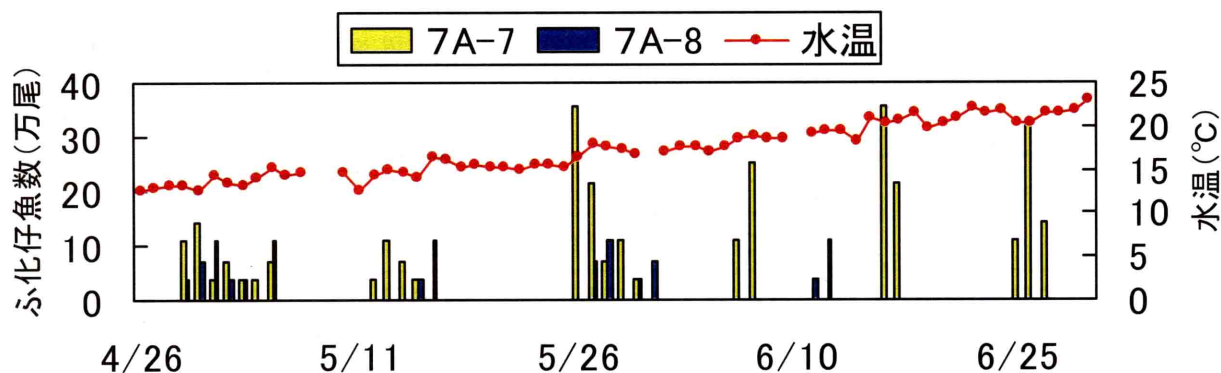


図1. 水温とふ化仔魚数の推移

* 1 太田滋規: ホンモロコの種苗生産における採卵基体の改良－Ⅱ, 平成15年度滋賀水試事報 26-27 (2004)